

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	コミュニケーション理論 I		(THB101)
講義名（コード）	コミュニケーション理論 IC		(THB101C)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	中村 久子	時間数	30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体的内容と概要	N2レベルの文法と聴解を学ぶ。試験形式の演習を行いJLPTのN2に合格する力をつける。また、フォーマルな言い方や書き言葉を学び、状況に応じた日本語を使い分けられるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	この授業の目的・ゴールを確認する。	4/17 オリエンテーション 教科書の使い方 自己紹介
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	4/24 必修パターン N2 基礎編 1～2 TRY!N2文法 課題配布
3		5/1 演習問題
4	話のポイントや概要が理解できるようになる。	5/8 必修パターンN2聴解 基礎編 3～4 TRY!N2文法 課題提出
5	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	5/15 必修パターン N2聴解 基礎編 5～6 TRY!N2文法 課題配布？
6	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	5/22 健康診断？必修パターンN2聴解 基礎編 7 TRY!N2文法
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	5/29 必修パターンN2聴解 課題理解 1～3 TRY!N2文法
8	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	6/5 必修パターンN2聴解 課題理解 4～6 TRY!N2文法
9	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	6/12 必修パターンN2聴解 課題理解 7～10 TRY!N2文法
10		6/19 JLPT模試
11		6/26 JLPT模試
12	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	7/3 必修パターンN2聴解 課題理解 11～14 TRY!N2文法 7/7 JLPT
13	質問に対する的確な答えが言える。	7/10 必修パターンN2聴解 ポイント理解 15～18 TRY!N2文法
14	期末試験	7/17 学期試験
15	追試・フィードバック	7/24 Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必修パターンN2 聴解 TRY!N2文法
参考文献・資料等	適宜会話練習、定着確認
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	コミュニケーション理論 I		(THB101)
講義名（コード）	コミュニケーション理論 I D		(THB101D)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	中村 久子	時間数	30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体の内容と概要	N2レベルの文法と聴解を学ぶ。試験形式の演習を行いJLPTのN2に合格する力をつける。また、フォーマルな言い方や書き言葉を学び、状況に応じた日本語を使い分けられるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	この授業の目的、ゴールを確認する。	4/16授業の進め方、自己紹介
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	4/23 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2 課題配布
3		4/30 演習問題
4	N2レベルの文字・語彙・文法の理解を深める。	5/7総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
5	話のポイントや概要が理解できるようになる。	5/14 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
6	N2レベルの文字・語彙・文法の理解を深める。	5/21 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
7	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	5/28 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
8	話のポイントや概要が理解できるようになる。	6/4 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
9	N2レベルの文字・語彙・文法の理解を深める。	6/11 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
10	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	6/18 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
11		6/25 JLPT模試
12		7/2 JLPT模試 7/7 JLPT
13	N2レベルの文字・語彙・文法の理解を深める。	7/9 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
14	期末試験	7/16 学期試験
15	追試・フィードバック	7/23 Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
参考文献・資料等	適宜会話練習、定着確認
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	プレゼンテーション演習 I		(THB103)
講義名（コード）	プレゼンテーション演習 IC		(THB103C)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	渋谷里美	時間数	30時間
成績評価教員	渋谷里美	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	プレゼンテーション

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力、人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で学生が異なる文化背景を持つ他者への理解力を高めるために、現代の社会課題に対して多様な視点から考えられるようになる。
全体的内容と概要	日本の風土や文化をはじめ様々な文化圏を分析し、自分の言葉で多文化圏の人々にその魅力や違いを説明する力を身につける。
授業時間外の学修	提示されたテーマについて理解を深めるために予習が必須である。
履修上の注意事項等	自身の考えをまとめ、豊かで明確な表現力をつけるため、積極的に授業に参加する姿勢が必要となる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業の内容・目的を理解することができる	ガイダンス（授業内容・年間授業スケジュール） 目標設定
2	身近な地理を理解する①	学校を端緒として身近な地理について考える。 『おもてなしの日本語』第1課－1
3	身近な地理を理解する②	周囲の身近な歴史、自然景観、インフラ、生活文化など幅広い情報を収集し学び、まとめる。
4	身近な地理を理解する③	身近な地域について魅力を考え、効果的なプレゼンテーションを作る 『おもてなしの日本語』第1課－2・まとめ
5	身近な地理を理解し紹介する	身近な地域について魅力を考え、伝えたいことをプレゼンテーションする 『おもてなしの日本語』第2課－1
6	日本の地理と風土を学ぶ①	日本の地理について学ぶ。 『おもてなしの日本語』第2課－2
7	日本の地理と風土を学ぶ②	日本の地理について概要を理解し、自身の興味をさらに深くする。 『おもてなしの日本語』第2課 まとめ
8	日本の地理と風土を学ぶ③	日本の地理についての魅力を整理し、効果的なプレゼンテーションを作る 『おもてなしの日本語』第3課－1
9	日本の風土や地理を理解し紹介する	日本の地理について魅力を考え、伝えたいことをプレゼンテーションする 『おもてなしの日本語』第3課－2
10	日本の歴史的災害について① 日本の災害について概要を知る	日本の歴史的災害について概要を知る 『おもてなしの日本語』第3課 まとめ
11	日本の歴史的災害について② 災害対策について意見を交わす	日本の災害と対策について調べて、考える 『おもてなしの日本語』第4課－1
12	日本の歴史的災害について③ 災害対策について意見や考えをまとめる	日本の災害と対策について調べ、より良い対策について考える 『おもてなしの日本語』第4課－2
13	日本の歴史的災害について③ 災害対策について発表する	日本の災害対策について発表する 『おもてなしの日本語』第4課－まとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『おもてなしの日本語』
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	プレゼンテーション演習 I	(THB103)	
講義名（コード）	プレゼンテーション演習 I D	(THB103D)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1 年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	渋谷里美	時間数	30時間
成績評価教員	渋谷里美	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組みしっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	読解のコツを知る	ガイダンス(年間授業スケジュール、到達目標) 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level1ウォームアップ①
2	読解の基礎を身に付ける 自己分析①	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level1ウォームアップ② 記述練習：自己の個性を考える・書く、シャドーイング
3	読解の基礎を身に付ける 自己分析②	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level1ウォームアップ③ 記述練習：自己の個性を考える・書く、シャドーイング
4	読解の基礎を身に付ける 自己分析③	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level1ウォームアップ④ 記述練習：自己のPRを考える・書く、シャドーイング
5	自己分析④	発表練習：自己PR（発表）
6	読解の基礎を身に付ける 異文化理解① 各国の年中行事	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level1ウォームアップ⑤ 調べ学習：各国の年中行事についてまとめる、シャドーイング
7	読解の基礎を身に付ける 異文化理解② 各国の年中行事をまとめる	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level1ウォームアップ⑥ 調べ学習：各国の年中行事について具体的に調べてまとめる、シャドーイング
8	語彙から内容を理解できる 異文化理解③ 各国の年中行事を紹介する	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level2 練習問題1日目 発表練習：各国の年中行事についてまとめる→発表する・他国の文化について学ぶ
9	異文化理解③ 各国の年中行事 を紹介する	発表練習：各国の年中行事についてまとめる→発表する・他国の文化について学ぶ
10	語彙から内容を理解できる	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level2 練習問題2日目
11	語彙から内容理解できる 年中行事①	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level2 練習問題3日目 調べ学習：日本の年中行事の概要や特徴を理解する、シャドーイング
12	語彙・グラフでの内容理解できる 年中行事②	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level2 練習問題4日目 調べ学習：日本の年中行事をとりあげて特徴を調べる、シャドーイング
13	前期のまとめ	前期のまとめ JLPTN2の問題形式に慣れる
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！JLPT「読解」N2
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	プレゼンテーション演習 I		(THB103)
講義名（コード）	プレゼンテーション演習 I D		(THB103D)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1 年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組むことで、しっかりと定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	読解のコツを知る	ガイダンス(年間授業スケジュール、到達目標) 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level 1ウォームアップ①
2	読解の基礎を身に付ける 自己分析①	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level 1ウォームアップ② 記述練習：自己の個性を考える・書く、シャドーイング
3	読解の基礎を身に付ける 自己分析②	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level 1ウォームアップ③ 記述練習：自己の個性を考える・書く、シャドーイング
4	読解の基礎を身に付ける 自己分析③	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level 1ウォームアップ④ 記述練習：自己のPRを考える・書く、シャドーイング
5	自己分析④	発表練習：自己PR（発表）
6	読解の基礎を身に付ける 異文化理解① 各国の年中行事	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level 1ウォームアップ⑤ 調べ学習：各国の年中行事についてまとめる、シャドーイング
7	読解の基礎を身に付ける 異文化理解② 各国の年中行事をまとめる	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level 1ウォームアップ⑥ 調べ学習：各国の年中行事について具体的に調べてまとめる、シャドーイング
8	語彙から内容を理解できる 異文化理解③ 各国の年中行事を紹介する	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level 2 練習問題1日目 発表練習：各国の年中行事についてまとめる→発表する・他国の文化について学ぶ
9	異文化理解③ 各国の年中行事 を紹介する	発表練習：各国の年中行事についてまとめる→発表する・他国の文化について学ぶ
10	語彙から内容を理解できる	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level 2 練習問題2日目
11	語彙から内容理解できる 年中行事①	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level 2 練習問題3日目 調べ学習：日本の年中行事の概要や特徴を理解する、シャドーイング
12	語彙・グラフでの内容理解できる 年中行事②	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step1 Level 2 練習問題4日目 調べ学習：日本の年中行事をとりあげて特徴を調べる、シャドーイング
13	前期のまとめ	前期のまとめ JLPTN2の問題形式に慣れる
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！JLPT「読解」N2
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

学校法人ISI学園 専門学校東京ビジネス外語カレッジ

2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	サステナビリティとビジネス I		(THB109)
講義名（コード）	サステナビリティとビジネス I		(THB109)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	辻野 啓一	時間数	30時間
成績評価教員	辻野 啓一	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	選択
実務者教員特記欄	本授業は関連業界で職業経験ある講師にて実施される。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	イベント企画力を身に着け、TBLの魅力をアピールできるオープンキャンパスを企画できるようになる。
全体の内容と概要	地域を元気にする方策としてイベントが有効ある。今こそ イベント力の理解と企画力が求められる。 イベントについて学んだノウハウを活かし、TBLのオープンキャンパスを企画してみる。
授業時間外の学修	他校の面白いオープンキャンパスの動画をたくさん視聴し、 その面白さを分析ができるように努める
履修上の注意事項等	特になし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	イベントの力について学び、魅力的なオープンキャンパスの企画をする。	オリエンテーション
2	イベントの力について学び、魅力的なオープンキャンパスの企画をする。	MICE（会議、報償、国際会議、イベント）について俯瞰する。 事例研究① 札幌雪祭り
3	イベントの力について学び、魅力的なオープンキャンパスの企画をする。	イベント講義① <イベント企画> 事例研究② よさいこいソーラン
4	イベントの力について学び、魅力的なオープンキャンパスの企画をする。	イベント講義② <イベント進行、管理> 事例研究③ ホノルルマラソン
5	イベントの力について学び、魅力的なオープンキャンパスの企画をする。	イベント講義③ <入場者増員策、広報> 事例研究③ 東川町 写真甲子園
6	イベントの力について学び、魅力的なオープンキャンパスの企画をする。	イベント講義④ <イベント終了後、次につなげる> 事例研究④ オリンピック
7	イベントの力について学び、魅力的なオープンキャンパスの企画をする。	魅力的なオープンキャンパス企画 <他校の研究>
8	イベントの力について学び、魅力的なオープンキャンパスの企画をする。	魅力的なオープンキャンパス企画 <TBLのセールスポイントは>
9	イベントの力について学び、魅力的なオープンキャンパスの企画をする。	魅力的なオープンキャンパス企画 <目玉企画>
10	イベントの力について学び、魅力的なオープンキャンパスの企画をする。	魅力的なオープンキャンパス企画 <最終の磨き>
11	イベントの力について学び、魅力的なオープンキャンパスの企画をする。	発表資料づくり
12	イベントの力について学び、魅力的なオープンキャンパスの企画をする。	発表 オープンキャンパス①
13	イベントの力について学び、魅力的なオープンキャンパスの企画をする。	発表 オープンキャンパス②
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	追試

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	特に使用せず
参考文献・資料等	「誰もお教えてくれないイベントの教科書」テリー植田 著（本の雑誌社） 各校の面白いオープンキャンパスを紹介している動画を視聴する。
備考	<u>旅行業界で38年間の経験を持ち、うち6年間はハワイに駐在。その後、日本エコツーリズム協会で理事・事務局長を5年間務める。観光実務に精通し、特にハワイのDMO成功事例に詳しい。現地でのイベント運営やリピーター創出の観点から、持続可能な観光の実践と魅力創出をリードしてきた。</u>

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	マーケティング I		(THB115)
講義名（コード）	マーケティング I		(THB115)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	HB2	単位数	2
授業担当者	石坂 尚	時間数	30
成績評価教員	石坂 尚	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は関連業界で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	マーケティングの基礎を理解し、実社会に出たときに応用できる知識を習得します
全体の内容と概要	マーケティングの4Pを中心に実社会ではどのように使われているのかを示しながら理解します
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	マーケティングを「感覚」ではなく「理論」で身につけること

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	マーケティングの必要性を理解する	なぜマーケティングが必要なのか
2	マーケティングの変遷を理解する	マーケティングの定義の変遷
3		(課題)
4	マーケティングの概要を理解する	1_要するに「マーケティング」とは何か？ ③セリングとマーケティングの違い
5	顧客ニーズとは何かを理解する	2_顧客のことを、しっかり知ろう！①欲求5段階説でお客様のニーズがつかめるか
6	知ってもらう、買ってもらうのプロセスを理解する	2_顧客のことを、しっかり知ろう！⑤消費者の購買行動がわかる「AIDMAの法則」
7	市場細分化を理解する	2_顧客のことを、しっかり知ろう！⑧顧客がわかれば「市場細分化」できる
8	差別化とは何かを理解する	2_顧客のことを、しっかり知ろう！⑩市場での位置決めをして差別化する
9	事業の脅威と戦い方を理解する	2_顧客のことを、しっかり知ろう！⑬5つの脅威
10	市場と製品、多角化を理解する	3_「市場」をとらえて戦略を組み立てよう！ ①市場における製品の位置づけを考えよう
11	戦略の基本を理解する	3_「市場」をとらえて戦略を組み立てよう！ ④外部環境分析・内部環境分析とは？
12	市場調査の概論を理解する	3_「市場」をとらえて戦略を組み立てよう！ ⑦「マーケティング・リサーチ」のやり方は？
13		前期の復習
14		前期試験
15		試験の解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	これだけは知っておきたい「マーケティング」の基本と常識
参考文献・資料等	
備考	授業のPDFは各時間用で作成

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	マネーマネジメント I		(THB117)
講義名（コード）	マネーマネジメント I		(THB117)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	ホスピタリティ・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	伊藤 玲	時間数	30
成績評価教員	伊藤 玲	講義期間	前期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄			授業形態

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	本授業では、ビジネスのお金の動きについて、会計処理の視点からとらえ、学ぶことを軸にしている。具体的には、簿記の学習を通じて、ビジネスでのお金の動きを見て、マネーマネジメント
全体の内容と概要	後期のマネーマネジメントⅡと合わせて、通年で商業簿記を学ぶ。各項目ごとに学習し、時間があれば、演習問題にトライする。
授業時間外の学修	日商簿記3級を目指す方は、本授業と問題集、資格試験対策練習を勧める。 授業外では、復習と表を作って書く練習をすることを勧める。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	テーマ01 簿記の意義	オリエンテーションと簿記の意義について
2	テーマ02 財務諸表と簿記の5要素	簿記の全体像をつかむ、表をイメージする
3	テーマ03 日常の手続き	実際のビジネス取引を簿記にしてみるためのイメージ
4	テーマ04 商品売買Ⅰ	仕入れ、売上を簿記にする、三分法、掛け
5	テーマ05 商品売買Ⅱ	返品などの処理の際の手続き
6	テーマ06 現金・預金	現金・預金の考え方、簿記での表し方
7	テーマ07 小口現金	奨学支払いに利用している現金の簿記的処理
8	テーマ08 クレジット売掛金	主流になっているクレジットでの取引の簿記処理
9	テーマ09 手形取引	手形の意味と簿記処理方法
10	テーマ10 電子記録債権・債務	電子化された債権・債務の簿記処理
11	テーマ11 その他の取引Ⅰ口	貸付・借入、利息、役員に対する金銭処理について
12	テーマ12 その他の取引Ⅱ	有形固定資産、未収入・未払い金、修繕・改良の簿記処理
13	テーマ13 その他の取引Ⅲ	仮払い金・借受金、給与、税金、諸会費の簿記処理
14	期末試験	期末試験、事前に範囲を確認し、その範囲での試験
15	フィードバックと全体のまとめ テーマ14 さまざまな帳簿の関	期末試験結果のフィードバックと様々な帳簿の関係

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	TAC公式教材『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級』
参考文献・資料等	TAC公式教材『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級』
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ホスピタリティ概論 I		（ THB119 ）
講義名（コード）	ホスピタリティ概論 I		（ THB119 ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1 年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	辻野 啓一	時間数	30時間
成績評価教員	辻野 啓一	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	前期は2回、魅力的で画期的なツアー企画を学習する。下呂一泊、沖縄2泊のツアー。 この企画で学んだスキルで、他の地域の企画にも応用がきくレベルにもっていく。
全体的内容と概要	後期は、ハワイ4泊の企画を行かない、国内、海外ともに、アイデアに富んだツアー企画が出来るようにする。前期、後期合計4回の発表を通して魅力的な発表資料の作成技術、発表のスキルの体得を目指す。
授業時間外の学修	ツアーにおいて、「何にが人の心をつかむか」を考える習慣をつける。
履修上の注意事項等	4人から5人でグループを組んでツアー企画をするので、グループ内で上手にコミュニケーションが図れるように努める。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	旅の重要要素を学ぶ	ターゲットを決め、下呂への一泊のツアーを企画する
2	DMOの成功例としての下呂の魅力、観光戦略を理解できるようになる。	ターゲットを決め、下呂への一泊のツアーを企画する
3	DMOの成功例としての下呂の魅力、観光戦略を理解できるようになる。	ターゲットを決め、下呂への一泊のツアーを企画する
4	DMOの成功例としての下呂の魅力、観光戦略を理解できるようになる。	ツアー企画：発表資料作り 分かりやすく、思いが伝わる資料作りを目指す。
5	DMOの成功例としての下呂の魅力、観光戦略を理解できるようになる。	企画したツアーの発表、ツアーについての意見交換 発表5分、質疑応答3分 各回 5, 6グループが発表
6	DMOの成功例としての下呂の魅力、観光戦略を理解できるようになる。	企画したツアーの発表、ツアーについての意見交換 発表5分、質疑応答3分 各回 5, 6グループが発表
7	沖縄2泊ツアーの企画：体験型、交流型の要素を考案できるようになる	前半の下呂ツアー企画で学習した知識をさらに深掘して 沖縄への2泊のツアーを企画する
8	沖縄2泊ツアーの企画：体験型、交流型の要素を考案できるようになる	前半の下呂ツアー企画で学習した知識をさらに深掘して 沖縄への3泊のツアーを企画する
9	沖縄2泊ツアーの企画：体験型、交流型の要素を考案できるようになる	前半の下呂ツアー企画で学習した知識をさらに深掘して 沖縄への4泊のツアーを企画する
10	沖縄2泊ツアーの企画：体験型、交流型の要素を考案できるようになる	前半の下呂ツアー企画で学習した知識をさらに深掘して 沖縄への5泊のツアーを企画する
11	沖縄2泊ツアーの企画：体験型、交流型の要素を考案できるようになる	前半の下呂ツアー企画で学習した知識をさらに深掘して 沖縄への5泊のツアーを企画する
12	グループ発表①	企画したツアーの発表、ツアーについての意見交換 発表5分、質疑応答3分 各回 5, 6グループ
13	グループ発表②	企画したツアーの発表、ツアーについての意見交換 発表5分、質疑応答3分 各回 5, 6グループ
14	試験	小テスト 8問、文章問題3問
15	追試	試験が受けられなかった学生が受験する。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	毎回、私が作成した講義資料を使う。
参考文献・資料等	様々なガイドブック、旅行会社の旅行パンフレット
備考	①授業の冒頭で、前回学習したことの小テストを行う。②授業の最後の10分位で、学んだことの重要ポイント、気付きなどをまとめるReaction paperを書いてもらう。

2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	地球のアジェンダ I（HB121）	配当学年	1
講義名（コード）	地球のアジェンダ I（HB121）	単位数	2
対象学科	グローバルビジネス	時間数	30
対象コース	ホスピタリティ・ビジネスコース	講義期間	春
専攻	同上	履修区分	必修
授業担当者	居山 由彦	授業形態	講義
成績評価教員	居山 由彦	実務者教員	○
実務者教員特記欄	本授業は関連業界で職業経験ある講師にて実施される。		

2. 本授業科目の概要

目的（位置づけ）	今後ビジネス界を含む社会全体で取り組むべき最も大きな課題、地球温暖化に関わる社会課題について全体像を理解する。それを解決、もしくは軽減するための知恵とビジネスモデルについて調査、考察、仮説設定を行う。
到達目標	地球のアジェンダに関わる社会課題の認識をふかめるとともに、その軽減につながるアイデアをデジタルの技術を活かして構想する
全体の内容と概要	今後ビジネス界を含む社会全体で取り組むべき最も大きな課題、地球温暖化に関わる社会課題について全体像を理解する。それを解決、もしくは軽減するための知恵とビジネスモデルについて調査、考察、仮説設定を行う。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項	
特記事項	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	講師	授業内容
1	居山	問題意識 全体観 社会課題の見つけ方
2	居山	地球環境問題とSustainabilityを意識した 社会課題のビジネス化事例をさがす
3	授業なし	授業なし
4	居山	SDGs 歴史的意義と価値観
5	居山	地球のアジェンダ 1： 地球温暖化 IPCC第6次評価報告書 温暖化のメカニズムと歴史 二酸化炭素 オゾン層 森林破壊 異常気象 永久凍土流出 氷山の溶解 海面上昇
6	居山	地球のアジェンダ 2： 水をめぐる問題 飲料水の不足 上水・下水 下水管の汚染
7	居山	地球のアジェンダ 3： ゴミをめぐる問題 廃棄物 リサイクル 食品サイクル
8	居山	地球のアジェンダ 4： マイクロプラスチックと海 水産資源問題
9	居山	地球のアジェンダ 5： 食と飢餓と人権をめぐる問題 食糧生産 フードロス 飢餓人口 フェアトレード
10	ゲスト講師	「日本の食とフードロスの問題を考える」
11	居山	地球のアジェンダ 6： 少子化・高齢化社会 そして人権をめぐる問題を地球全体の視点で考える どんな社会課題が見えるか？
12	ゲスト講師	地球のアジェンダ 7： ジェンダーをめぐる問題 ジェンダー平等 女性活躍推進 少子化対策
13	居山	地球のアジェンダ 8： 化石燃料をめぐる問題 クリーンエネルギー 再生エネルギーの世界的普及 EV 原子力
14	居山	期末レポート作成
15	居山	まとめとフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	
備考	<u>企画・マーケティング・経営企画など多様な分野に従事。欧州6年・中国4年の海外勤務を通じ、EU統合や中国WTO加盟といった変革期に多国籍人材を率いて事業改革を推進。欧州マーケティング統括、中国現地法人社長、本社関連会社社長など要職を歴任。</u>

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスマナー I		(THB123)
講義名（コード）	ビジネスマナー ID		(THB123D)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	槌谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	槌谷 智子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、身近な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体的内容と概要	N2レベルの漢字・語彙を学ぶ。漢字や熟語を理解し、正確に読むことができるようにする。漢字については書く練習も行っていく。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	漢字の習得 生活に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 第1課 総まとめ語彙N2 第1週2日目
2	漢字の習得 生活に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 第2課 総まとめ語彙N2 第1週4日目
3	漢字の習得 生活に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 第4課 課題 総まとめ語彙N2 第1週6日目 課題
4	漢字の習得 仕事に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 課題FB 総まとめ語彙N2 課題FB 2週1日目
5	漢字の習得 仕事に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 第5課 総まとめ語彙N2 第2週3日目
6	漢字の習得 仕事に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 第6課 総まとめ語彙N2 第2週5日目
7	漢字の習得 人に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 第7課 総まとめ語彙N2 第3週1日目
8	漢字の習得 人に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 第8課 総まとめ語彙N2 第3週3日目
9	漢字の習得 人に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 第9課 総まとめ語彙N2 第3週5日目
10	漢字の習得、 演習問題	どんどんつながる漢字練習帳 第10課 JLPT模試
11	漢字の習得 副詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 第11課 総まとめ語彙N2 第4週2日目
12	漢字の習得 副詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 第12課 総まとめ語彙N2 第4週4日目
13	漢字の習得 副詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 第13課 総まとめ語彙N2 第4週6日目
14	期末試験	学期試験 漢字
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	どんどんつながる漢字練習帳 中級、 総まとめ語彙N2
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスマナー I		(THB123)
講義名（コード）	ビジネスマナー I C		(THB123C)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	丹治 理恵	時間数	30時間
成績評価教員	丹治 理恵	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体的内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組みしっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	読解の基礎を身に付ける	ガイダンス(年間授業スケジュール、到達目標) 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step1 Level 1 ウォームアップ①②
2	読解の基礎を身に付ける	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 1ウォームアップ③④
3	読解の基礎を身に付ける	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 1 ウォームアップ⑤⑥
4		演習問題
5	語彙から内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Leve 2 練習問題 1 日目
6	語彙から内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 2 練習問題 2 日目
7	語彙から内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 2 練習問題 3 日目
8	語彙・グラフでの内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 2 練習問題 4 日目
9	語彙・グラフでの内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 2 練習問題 5 日目
10	JLPT模試 N2 読解&解説	JLPT模試 N2 読解&解説
11	JLPT模試 N2 読解&解説	JLPT模試 N2 読解&解説
12	語彙・図での内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 2 練習問題 6 日目
13	語彙・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 2 練習問題 7 日目
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！ JLPT「読解」 N2 パワードリルN2 文字語彙
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	キャリアデザイン I		（ THB125 ）
講義名（コード）	キャリアデザイン I		（ THB125 ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	川本 千陽	時間数	30時間
成績評価教員	川本 千陽	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義・演習

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自己のライフキャリアを見つめなおし、多様なキャリア形成の基礎を養うこと。自己のキャリア目標を詳細に設定し、記録し、振り返りできるようになること。
全体の内容と概要	専門学校へ進学した意味や目的を再確認し、必要なキャリア形成の知識・スキルを自ら調べてアウトプットできるようにする。
授業時間外の学修	不明点は授業時間外に学習者が調べ授業時間内に質問することとする。
履修上の注意事項等	学習者が自ら調べ、自分の意見をアウトプットさせて参加者のフィードバックを積極的に受けるスタイルとする。教員は学習者の発言を促し、授業全体をファシリテートすること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	キャリアデザイン授業の目的理解と学習記録の付け方理解	学び録は学習進捗と成果を記録するツールで、学生の学習履歴を追跡・分析し、目標達成に向けた計画立てを支援します。
2	目標を設定する意味と実践	WOOPを活用した目標設定で理想を思い描き、想定される障害を洗い出し、具体的な計画（考えられる障害に対する対策）を立案します。
3	オープンウィンドウ64を活用して目標設定を細分化する。	【目標設定ワーク】目標設定と自己分析を学び、心・技・体・生活のバランスを分析し、自己成長とスキル定着に役立てる。
4	オープンウィンドウ64を活用して目標設定を細分化する。	【目標設定ワーク】具体的な行動計画を立て実践方法を学び、目標達成のためのスキルを向上させる。
5	オープンウィンドウ64を活用して目標設定を細分化する。	【目標設定ワーク】行動をルーティン化し、スキル定着のために定期的に振り返りを行い、自分の成長を確認する方法を身につける。
6	細分化した目標設定を具体的な計画へと具体化する	【目標設定フレームワーク】オープンウィンドウ66を活用し、学びの目的・目標・学習方法を具体化して計画する。
7	ラーニングスキル講座のアウトプットをする。	I(U)LPワークショップ①
8	ラーニングスキル講座のアウトプットをする。	I(U)LPワークショップ②
9	自己を理解することで、自分の特性を知る	キャリアデザイン①タイプ論（MBTI）に基づいた自己分析ツールを活用し、自己の性格的特徴を知る。
10	自己を理解することで、自分の特性を知る	キャリアデザイン②就職活動で使用するスーツ着用のポイントを知る。「メラビアン法則」に基づき視覚情報の重要性を知る。
11	仕事を理解する	キャリアデザイン③「マイナビ」「企業ホームページ」を活用して、仕事理解を深める。求人を理解し、仕事選びの基準を考える。
12	外国人雇用と日本社会を学ぶ	キャリアデザイン④在留資格・技術・人文知識・国際業務と特定技能1号について理解する。自身の進路の選択肢を広げる。
13	インターンシップとは何か理解する	キャリアデザイン⑤インターンシップとは何か。インターンシップへの参加方法、インターンシップに参加した場合のメリットを理解する。
14		期末試験
15		フィードバック/追試

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	授業の回数と順番は、ラーニングスキルの講義日程と調整するため、変動する可能性があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	情報リテラシー I		(THB127)
講義名（コード）	情報リテラシー IA		(THB127A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	松橋 芙蓉	時間数	30時間
成績評価教員	松橋 芙蓉	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	選択
実務者教員特記欄	業務において実際に使用した経験がある	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	officeのwordとPowerPointについてビジネスレベルの技術を身につける。 E-typing (https://www.e-typing.ne.jp) でスコア250点以上。
全体的内容と概要	授業の進め方としては、「ブランク」を「完成版」に近づけるための操作を学習する。ネットや生成AIなどを使い操作を確認しながら自力での解決を目指し、その後、講師の説明を受け、適切
授業時間外の学修	タイピングアプリを使い、タイピングの速度向上に取り組む。
履修上の注意事項等	officeのバージョンによって、若干操作に誤差が出る場合がある。 PCは、学校から貸し出す。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Wordのスキル確認	Wordのスキル確認ワープロ検定3級程度の速度入力、ビジネス文書作成について、どの程度対応力があるのかを確認、作成した資料をTeams経由で
2	文章の基本をマスター①	1.そろえ（1）、2.フォント、3.罫線、網かけ、4.段落番号、箇条書き、5.段落内の改行、6.段落の並び替え
3	文章の基本をマスター②	7.編集記号の表示、8.行全体を選択、9.書式のクリア、10.そろえ（均等割り付け）、11.そろえ（タブマーカー）、12.タブリー
4	文章の基本をマスター③	13.脚注、14.検索、15.置換、16.行間と間隔、17.インデント、18.ルーラー
5	文章の応用をマスター①	1.スタイルとは、2.標準、3.表題、4.見出し1、5.見出し2、6.見出しのコツ
6	文章の応用をマスター②	7.ナビゲーション、8.アウトライン、9.見出し番号のズレ、10.見出し番号の応用（連番）、11.目次、12.ページ番号
7	文章の応用をマスター③	13.日付、14.ヘッダー・フッター、15.改ページ（基本）、16.改ページ（応用）、17.ページ余白、18.用紙サイズ、向き
8	プレゼンの本質理解	プレゼンの本質理解聞き手（お客様）を説得するためのプレゼン資料作成とは
9	PowerPointの基本①	1.プレゼンの大原則、2.スライドを作り始める前に、3.スライドサイズの調整、
10	PowerPointの基本②	7.フォントの色を設定、8.テキストボックスを整列、9.スライドマスターとは、
11	PowerPointの基本③	12.シンプルグラフ、13.左グラフ・右メッセージ、14.ワンカラー効果、15.1スライド1グラフ、16.棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフ
12	PowerPointの応用①	17.ビジュアルの効果とは、18.画像を挿入する、19.トリミングを使いこなす、20.画像＋文字は“透過”する、21.画像の色でメリハリ、22.多画像効
13	課題作成	課題作成テーマに基づいた、プレゼンテーション資料をPowerPointを使って作成、提出
14	期末試験	期末試験実施
15	追試	追試実施

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	PDF教材
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	通訳演習 I		（ THB131 ）
講義名（コード）	通訳演習 IC		（ THB131C ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	伊東かつみ	時間数	30時間
成績評価教員	伊東かつみ	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	①携帯で文を打つ時に漢字変換が容易にできるようにする。②打った漢字をほぼ正確に読めるようにする。③音を聞いて漢字が想像できるようにする。
全体的内容と概要	N2レベルの漢字・語彙を学ぶ。 ①質問には携帯で調べて答える。早く答えたグループが点数を獲得する。②文を作って会話文をどんどん発表する。③教師の話した文を携帯で漢字変換して、文にする。音声入力、ローマ入力、かな入力でも文を早く漢字変換の文にする。
授業時間外の学修	毎回授業のはじめに前回の漢字を使って、グループで発表する準備をする。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1		オリエンテーション、自己紹介、自分の名前を漢字にする。 第1週、1日目、看板、注意書き
2	漢字	2日目、建物の中で見る漢字、グループワーク
3	漢字と名詞化	3日目;表示 言い換え、場面練習、 4日目;駅で見る漢字 同義語、言い換え、場面演習
4	漢字 自他動詞の区別	5日目; 乗り物で見る漢字 混乱する語彙の区別 6日目; 病院で見る漢字 意味の理解とペア演習
5	復習	7日目; 小テスト フィードバック
6	漢字 自動販売機	第2週 1日目; 2日目; グループワーク、漢字の読み方、
7	漢字 リモコン、p c	3日目; 語彙の組み合わせ 4日目; カタカナの組み合わせ 5日目パソコン用語
8	漢字	6日目;組合せ、ペア練習、小テスト、N2模擬テスト
9	漢字 生活用語	第3週; 1日目; 2日目; 文を作る グループワーク
10	漢字 生活用語	3日目、4日目: 場面練習、漢字の読み方、ペア練習
11	漢字 生活用語	5, 6日目;通知、オノマトペ、視覚化で理解
12	復習	7日目; 小テスト フィードバック
13	復習	漢字読み方、聞き取り練習、テストの練習
14	前期試験	試験
15	試験の解説	試験のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	総まとめ漢字N2
参考文献・資料等	オノマトペのP P T
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	通訳演習 I		(THB131)
講義名（コード）	通訳演習 I D		(THB131D)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	槌谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	槌谷 智子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、身近な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体的内容と概要	N2レベルの漢字・語彙を学ぶ。漢字や熟語を理解し、正確に読むことができるようにする。漢字については書く練習も行っていく。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	漢字の習得 生活に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 1課 総まとめ語彙N2 第1週1日目
2	漢字の習得 生活に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 2課 総まとめ語彙N2 第1週3日目
3	漢字の習得 生活に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 3課 課題 総まとめ語彙N2 第1週5日目 課題
4	漢字の習得 仕事に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 5課 総まとめ語彙N2 第2週2日目
5	漢字の習得 仕事に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 6課 総まとめ語彙N2 第2週4日目
6	漢字の習得 仕事に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 7課 総まとめ語彙N2 第2週6日目
7	漢字の習得 旅行・交通に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 8課 総まとめ語彙N2 第3週2日目
8	漢字の習得 人に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 9課 総まとめ語彙N2 第3週4日目
9	漢字の習得 人に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 10課 総まとめ語彙N2 第3週6日目
10	漢字の習得 副詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 11課 総まとめ語彙N2 第4週1日目
11	漢字の習得 副詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 12課 総まとめ語彙N2 第4週3日目
12	漢字の習得 副詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 13課 総まとめ語彙N2 第4週5日目
13	前期の内容の理解と定着	前期のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	どんどんつながる漢字練習帳 中級、 総まとめ語彙N2
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	行動経営学 I (金、3)		(THB 113)
講義名（コード）	行動経営学 I (金、3)		(THB113)
対象学科	グローバルビジネス	配当学年	1
対象コース	デジタルビジネス	単位数	2
授業担当者	Phuyal Mohan フヤル モハン	時間数	30
成績評価教員	Phuyal Mohan フヤル モハン	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	学で経済学の授業を担当しており、3年以上の講義経験があります。	授業形態	対面授業

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	本コースでは、デジタル技術を活用したビジネスモデルや市場の変化を理解し、企業経営や経済への影響を学ぶことを目的とする。
全体的内容と概要	DXの導入がどのように競争優位を生むのか、そして企業がデジタル化に成功するための戦略的アプローチを理解することを目的とします。
授業時間外の学修	DXに関する本、ニュースや記事を読むこと。Read books, news, and articles related to Digital Transformation to learn more.
履修上の注意事項等	授業に積極的に参加しわからないことをわかるまで質問する。Active Participation in class and ask questions until you understand.

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	講義の進め方の説明
2	デジタルビジネスの概論	デジタルビジネスとは何か？デジタルビジネスの特徴を学ぶ。
3	ソーシャルメディアとビジネス戦略の現状と課題。	ソーシャルメディアを活用したビジネス戦略の基礎を学ぶ。
4	デジタルマーケティングとは何か？	インターネットやデジタル技術を活用したマーケティングの基礎知識、主要手法、最新動向を学びます。
5	デジタル技術が生み出したビジネスモデル	デジタル技術の導入が企業や社会に与える影響を考察する。
6	デジタルトランスフォーメーション（DX）とは何か？	DX の基本概念・定義と背景。企業のDX事例について学ぶ。
7	DXにおける専門用語の基礎と活用	DX用語を使った簡単なプレゼンテーションやビジネス説明ができるようになる。
8	日本企業のデジタルビジネス事例分析①	日本企業にどのようにデジタル技術が活用されているかを理解する。
9	日本企業のデジタルビジネス事例分析②	日本企業にどのようにデジタル技術が活用されているかを理解する。
10	グローバルなデジタルビジネスの動向①	世界のデジタルビジネスの最新動向を体系的に理解するGAFAを中心に
11	グローバルなデジタルビジネスの動向②	世界のデジタルビジネスの最新動向を体系的に理解するGAFAを中心に
12	デジタルプラットフォームとビジネスモデル	GAFA の事例を中心に現代の企業戦略に与える影響を学ぶ。
13	デジタルプラットフォームとビジネスモデルの進化	プラットフォームビジネスモデルがビジネスモデルがどのように進化してきたかを理解する。
14	前期講義の復習	前期授業の復習し試験内容について質疑応答
15	前期試験	筆記試験

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	①イラスト&図解でわかるDX デジタル・トランスフォーメーション デジタル技術で爆発的に成長する産業、破産される産業 著 （兼安 暁）② 世界一わかりやすいDX入門
参考文献・資料等	必要に応じて教科書などを授業で紹介する。
備考	